

J C W<sup>®</sup>

# 技 術 資 料

## 施工例及び施工上のご注意

2005年 4月 1日制定  
2006年 10月 1日改正(1版)  
2008年 4月 1日改正(2版)  
2013年 4月 1日改正(3版)



日本鑄鉄ふた・排水器具工業会

## 目 次

J CW 2 0 1	床排水トラップ（P形・変形P形）	1
J CW 2 0 1	床排水トラップ（わん形）	2
J CW 2 0 2	流しトラップ（金属製流し用）	3
J CW 2 0 2	流しトラップ（コンクリート製流し用）	4
J CW 2 0 3	床上掃除口（防水層用）	5
J CW 2 0 4	排水金物（排水共栓）	6
J CW 2 0 4	排水金物（流し排水金物）	7
J CW 2 0 5	通気金具（埋込型）	8
J CW 2 0 5	通気金具（露出型）	9
SHASE-S 209	鋳鉄製マンホールふた（マンホールふた）	10
SHASE-S 209	鋳鉄製マンホールふた（化粧マンホールふた）	11
J CW 1 0 3	弁柵ふた	12
J CW 1 0 4	弁きょう	13
J CW 1 0 5	量水器柵ふた	14
J CW 3 0 1	ルーフドレン（ろく屋根用たて形）	15
J CW 3 0 1	ルーフドレン（バルコニー用）	16
J CW 3 0 1	ルーフドレン（ろく屋根用横形）	17
ねじ配管接続時の注意点		18~20

J CW201 床排水トラップ (P形・変形P形)

めっき部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
めっきがはがれる事があります。

金具枠の上面は、仕上げ面より高くならないように施工して下さい。

ストレーナ等の損傷防止のため  
施工中は、養生をして下さい。

水抜き孔をふさがないように  
施工して下さい。

防水層

平行ねじ部の接合は、水もれ等がないようテープ状シール材を使用し確実に施工して下さい。液状シール剤は、ねじ部のシールが不完全になりやすいため、ご使用は避けて下さい。

テーパねじ部の接合は、雄ねじ先端(あまりねじ部)に防錆が必要な為、防食性能のある液状シール剤を使用し確実に施工して下さい。

施工例:T3B

完成時には、トラップ内部のごみ及びよごれ等を清掃して下さい。

※ねじ接合時の注意点については、「ねじ配管接続時の注意点」を参照下さい。

施工例:T16B

# J CW201 床排水トラップ（わん形）

めっき部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
めっきがはがれる事があります。

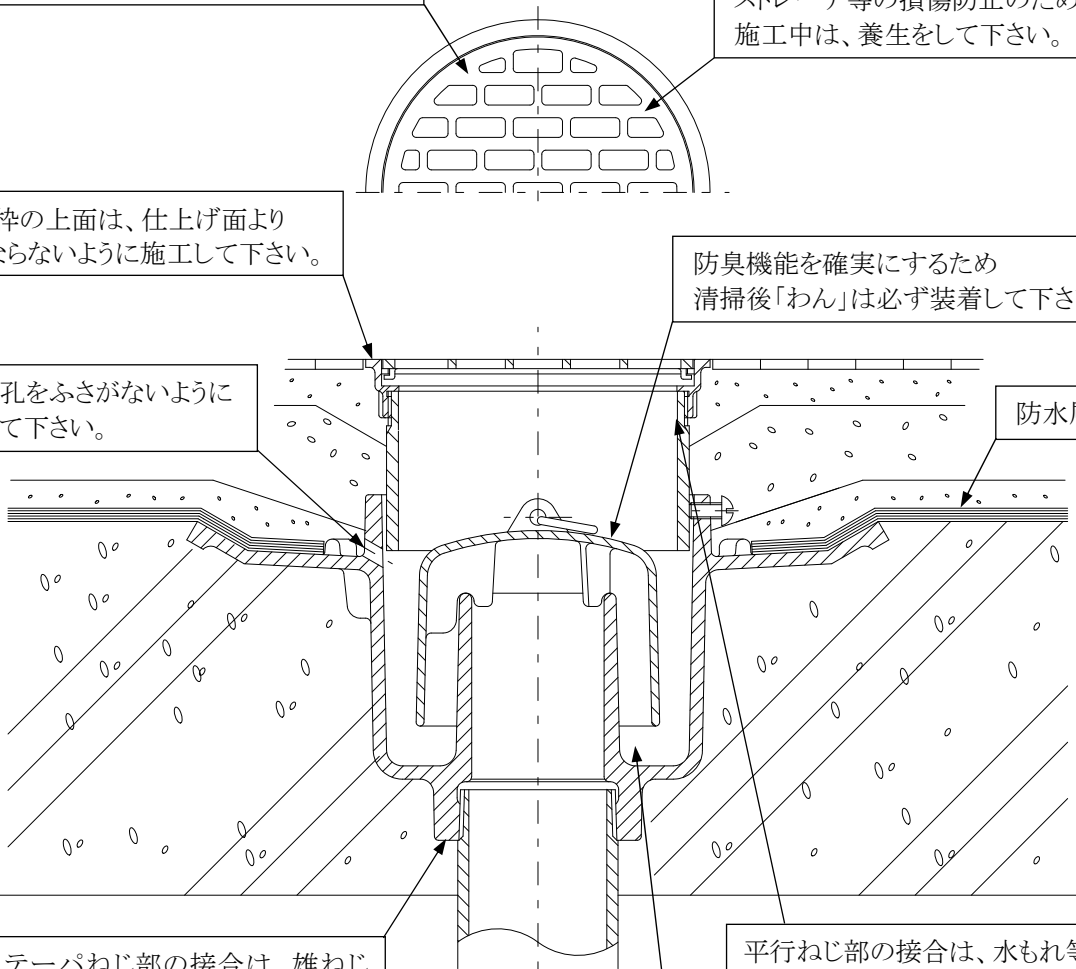
ストレーナ等の損傷防止のため  
施工中は、養生をして下さい。

金具枠の上面は、仕上げ面より  
高くならないように施工して下さい。

防臭機能を確実にするため  
清掃後「わん」は必ず装着して下さい。

水抜き孔をふさがないように  
施工して下さい。

防水層



テーパねじ部の接合は、雄ねじ  
先端（あまりねじ部）に防錆が必要  
な為、防食性能のある液状シール  
剤を使用し確実に施工して下さい。

施工例：T5B

平行ねじ部の接合は、水もれ等が  
ないようテープ状シール材を使用し  
確実に施工して下さい。液状シール  
剤は、ねじ部のシールが不完全に  
なりやすいため、ご使用は避けて  
下さい。

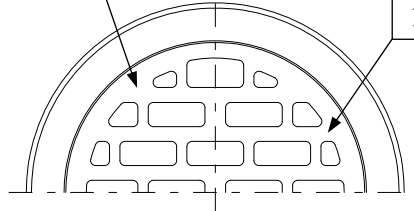
※ねじ接合時の注意点については、「ねじ配管接続時の注意点」を参照下さい。

完成時には、トラップ内部のごみ  
及びよごれ等を清掃して下さい。

## JCW202 流しトラップ（金属製流し用）

めっき部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
めっきがはがれる事があります。

ストレーナ等の損傷防止のため  
施工中は、養生をして下さい。



金属製流し台

流しとの接合部は、水もれ等がないように専用工具を用いて確実に施工して下さい。  
部品を入れ違くと水もれの原因になります。

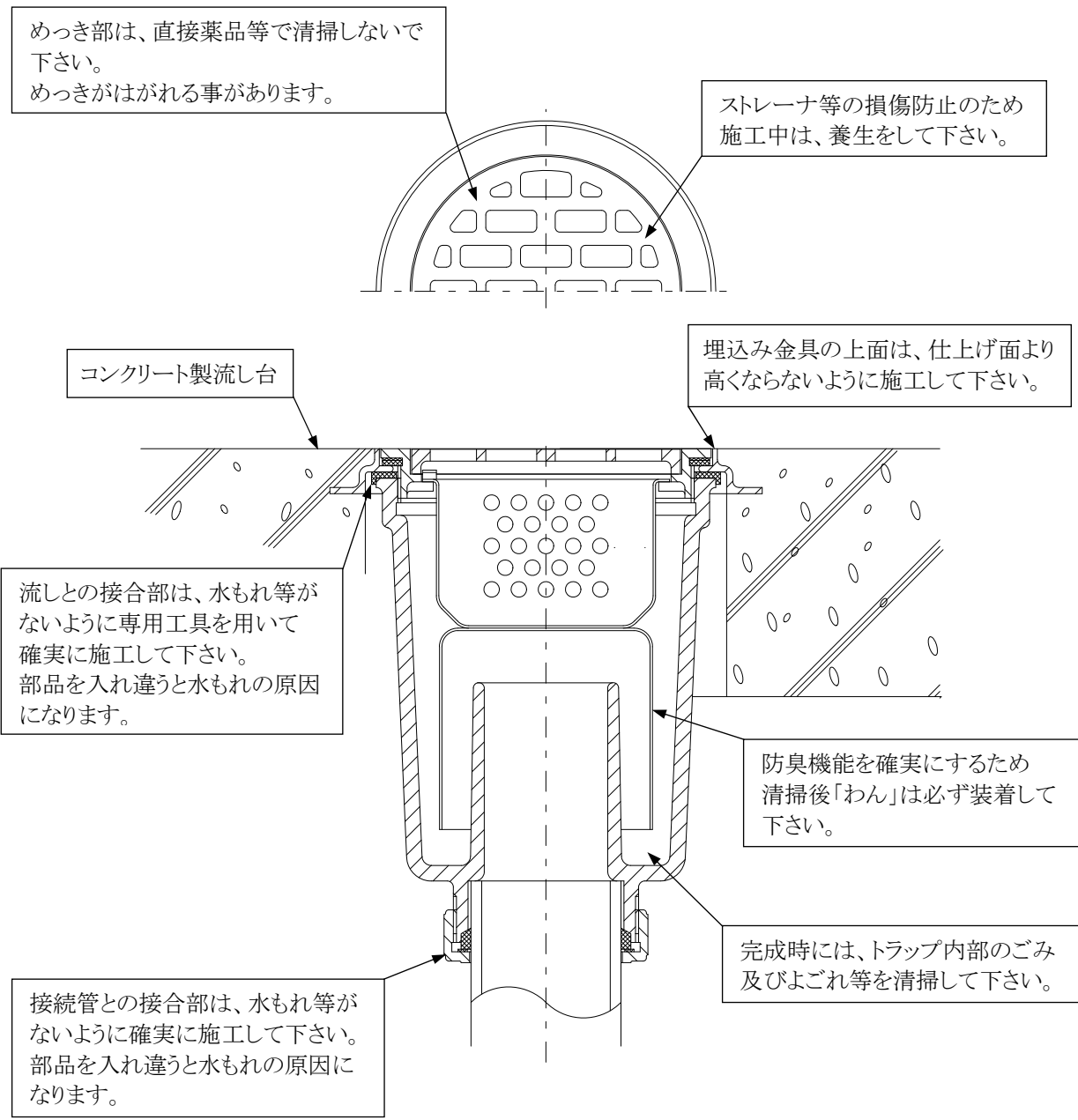
防臭機能を確実にするため  
清掃後「わん」は必ず装着して下さい。

接続管との接合部は、水もれ等がないように確実に施工して下さい。  
部品を入れ違くと水もれの原因になります。

完成時には、トラップ内部のごみ及びよごれ等を清掃して下さい。

施工例:T14AA

## J CW202 流しトラップ (コンクリート製流し用)

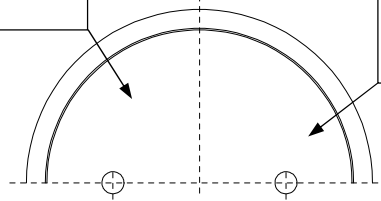


施工例:T14BA

# J CW203 床上掃除口（防水層用）

めっき部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
めっきがはがれる事があります。

ふた等の損傷防止のため  
施工中は、養生をして下さい。



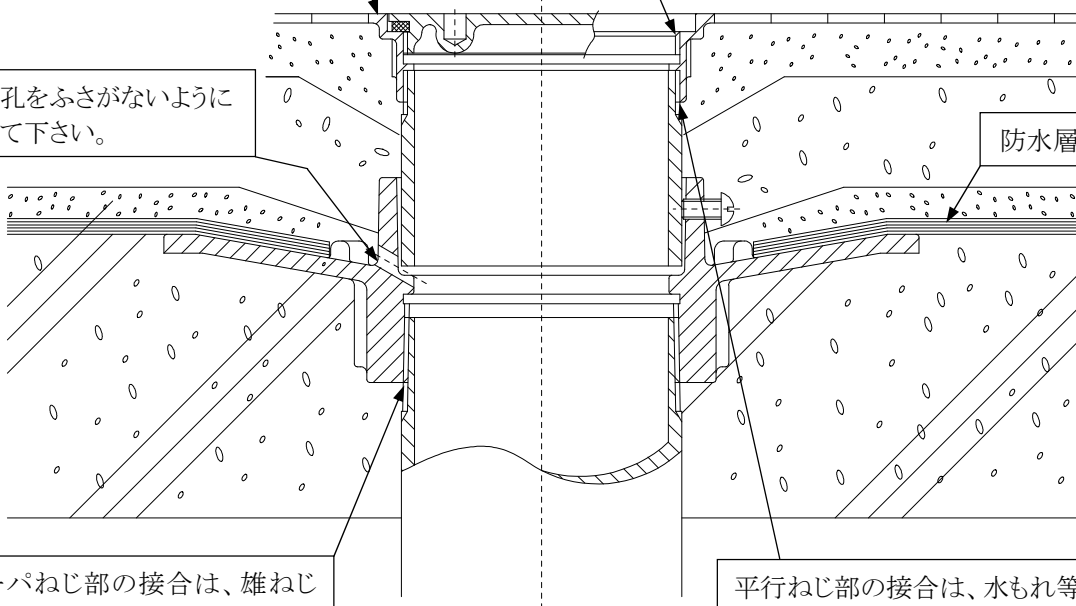
金具枠の上面は、仕上げ面と同じ高さになるように施工して下さい。

完成時には、ふた及び金具枠のねじ部のごみやよごれ等を清掃して下さい。



水抜き孔をふさがないように施工して下さい。

防水層



テーパねじ部の接合は、雄ねじ先端（あまりねじ部）に防錆が必要な為、防食性能のある液状シーラント剤を使用し確実に施工して下さい。

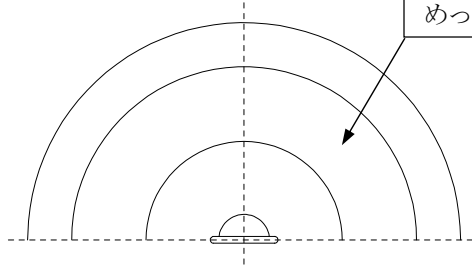
平行ねじ部の接合は、水もれ等がないようテープ状シーラント材を使用し確実に施工して下さい。液状シーラント剤は、ねじ部のシーラントが不完全になりやすいため、ご使用は避けて下さい。

施工例：COB

※ねじ接合時の注意点については、「ねじ配管接続時の注意点」を参照下さい。

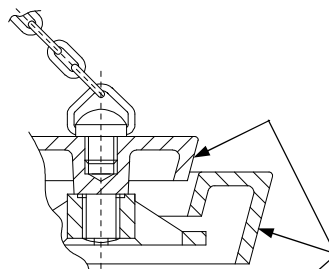
# J CW204 排水金物（排水共栓）

めっき部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
めっきがはがれる事があります。



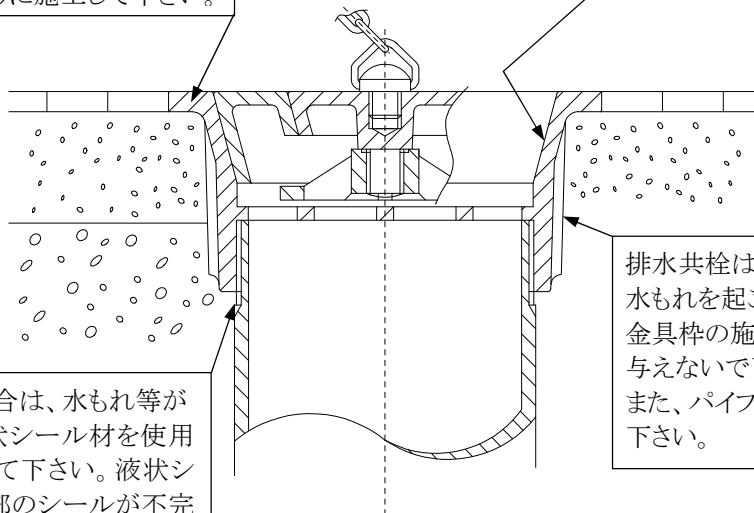
金具枠の上面は、仕上げ面より高くないように施工して下さい。

完成時には、共栓及び金具枠の合わせ面のごみやよごれ等を清掃して下さい。



平行ねじ部の接合は、水もれ等がないようテープ状シール材を使用し確実に施工して下さい。液状シール剤は、ねじ部のシールが不完全になりやすいため、ご使用は避けて下さい。

排水共栓は、金具枠の変形により水もれを起こす事があります。金具枠の施工時には、強い衝撃を与えないで下さい。また、パイプレンチは使用しないで下さい。



施工例：SNA

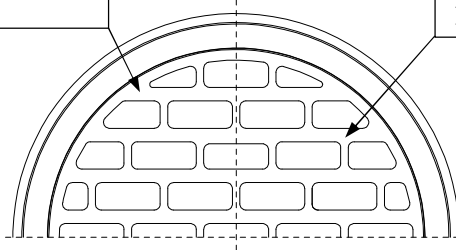
※ねじ接合時の注意点については、「ねじ配管接続時の注意点」を参照下さい。



## J CW 2 0 4 排水金物（流し排水金物）

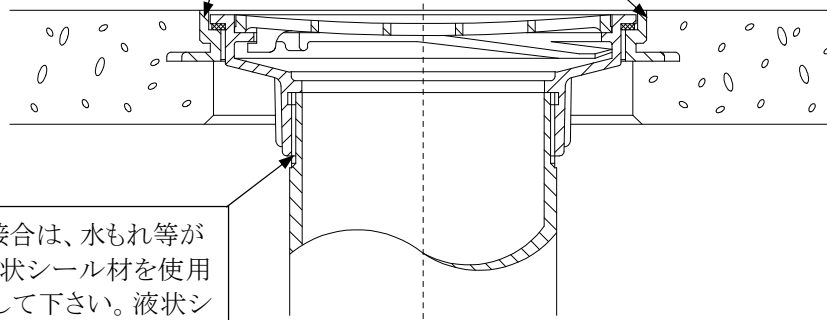
めっき部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
めっきがはがれる事があります。

ストレーナ等の損傷防止のため  
施工中は、養生をして下さい。



埋込み金具の上面は、仕上げ面より  
高くならないように施工して下さい。

流し排水金物の流しとの接合部は、  
水もれ等がないように確実に施工  
して下さい。



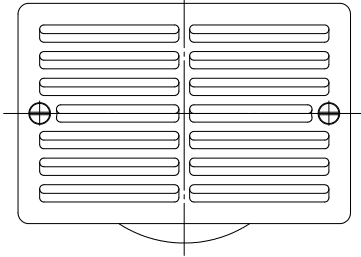
平行ねじ部の接合は、水もれ等が  
ないようにテープ状シール材を使用  
し確実に施工して下さい。液状シ  
ール剤は、ねじ部のシールが不完  
全になりやすいため、ご使用は避  
けて下さい。

施工例：SNC

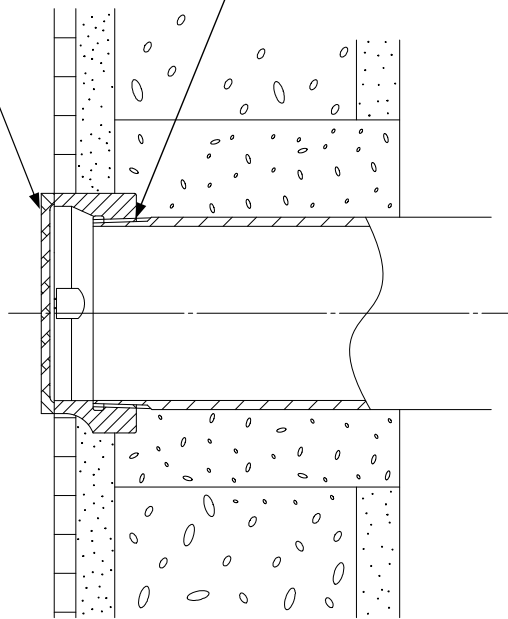
※ねじ接合時の注意点について  
は、「ねじ配管接続時の注意点」  
を参照下さい。

J CW205 通気金具（埋込型）

めっき部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
めっきがはがれる事があります。



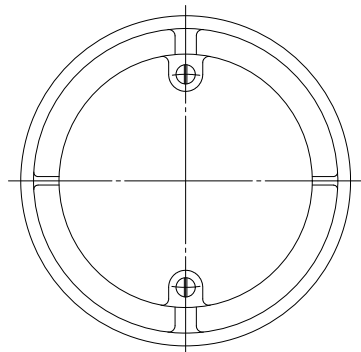
テーパねじ部の接合は、雄ねじ先端（あまりねじ部）と雌ねじ部に防錆が必要な為、防食性能のある液状シーリング剤を使用し確実に施工して下さい。



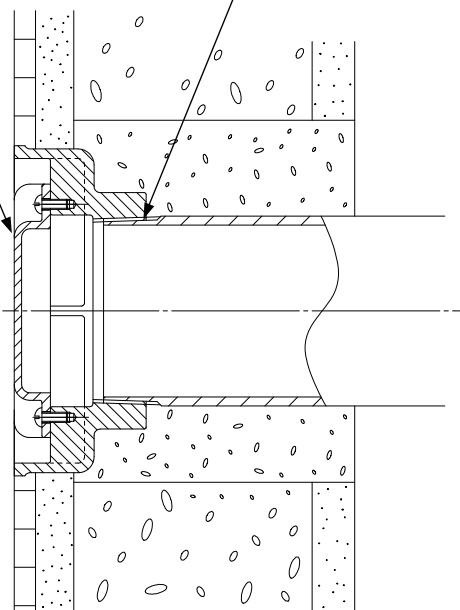
※ねじ接合時の注意点については、「ねじ配管接続時の注意点」を参照下さい。

施工例:VA2

めっき部及び塗装部は、直接薬品等で清掃しないで下さい。  
はがれる事があります。

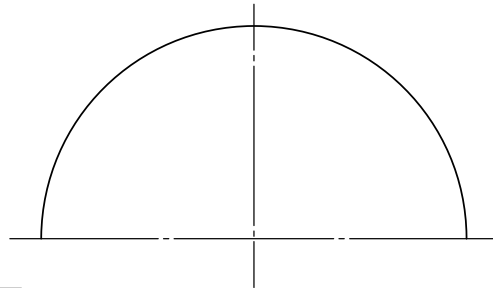


テーパねじ部の接合は、雄ねじ先端（あまりねじ部）と雌ねじ部に防錆が必要な為、防食性能のある液状シーリング剤を使用し確実に施工して下さい。

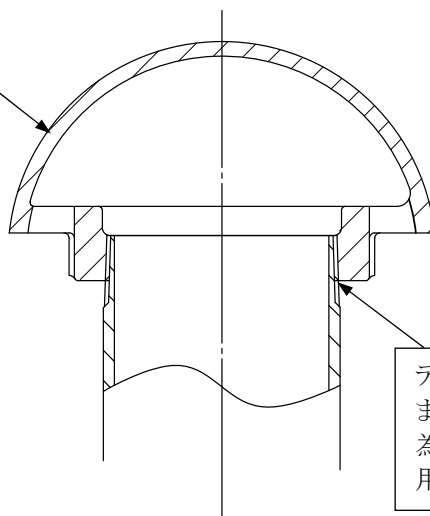


施工例:VC-BF

# JCW205 通気金具（露出型）



めっき部及び塗装部は、  
直接薬品等で清掃しな  
いで下さい。  
はがれる事があります。



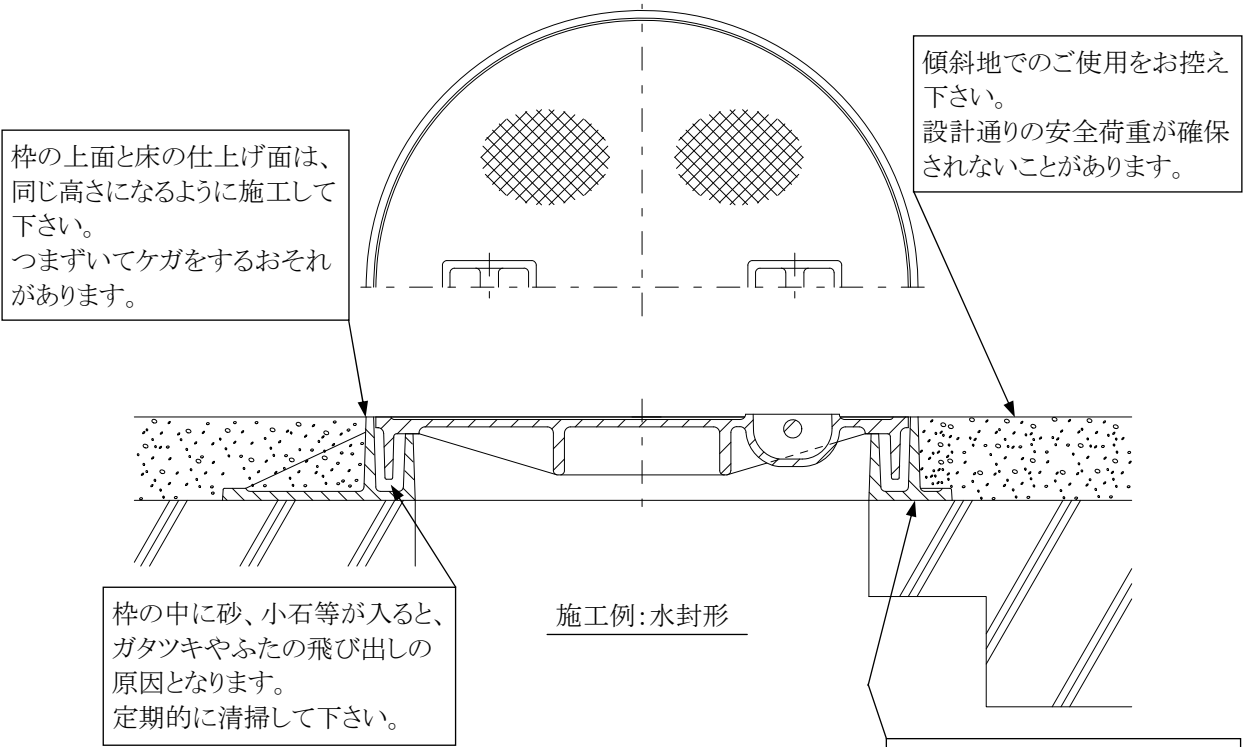
テーパねじ部の接合は、雄ねじ先端(あ  
まりねじ部)と雌ねじ部に防錆が必要な  
為、防食性能のある液状シール剤を使用し  
確実に施工して下さい。

施工例:VC-EF

※ねじ接合時の注意点について  
は、「ねじ配管接続時の注意点」  
を参照下さい。

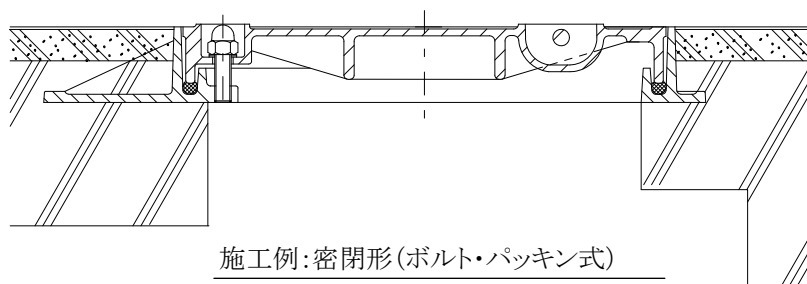
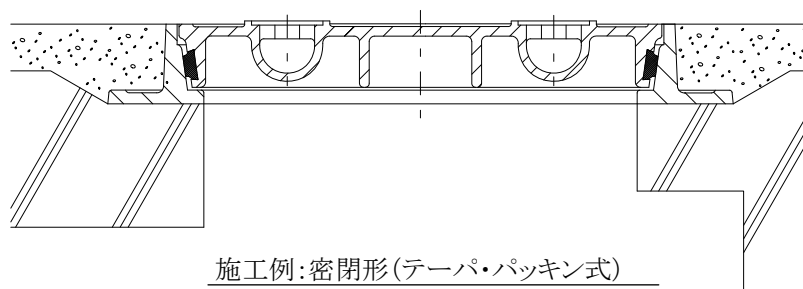
# SHASE - S 209 鑄鉄製マンホールふた（マンホールふた）

**!** 適用の範囲および安全荷重を超えた車輛が通過しないようにして下さい。破損することがあります。




**!** 水封形の「5000K・1500K」と「500K」は寸法が違いますので、間違えないように据え付けて下さい。

コンクリートで枠全体を受ける状態に施工して下さい。  
枠の破損により事故及びケガのおそれがあります。

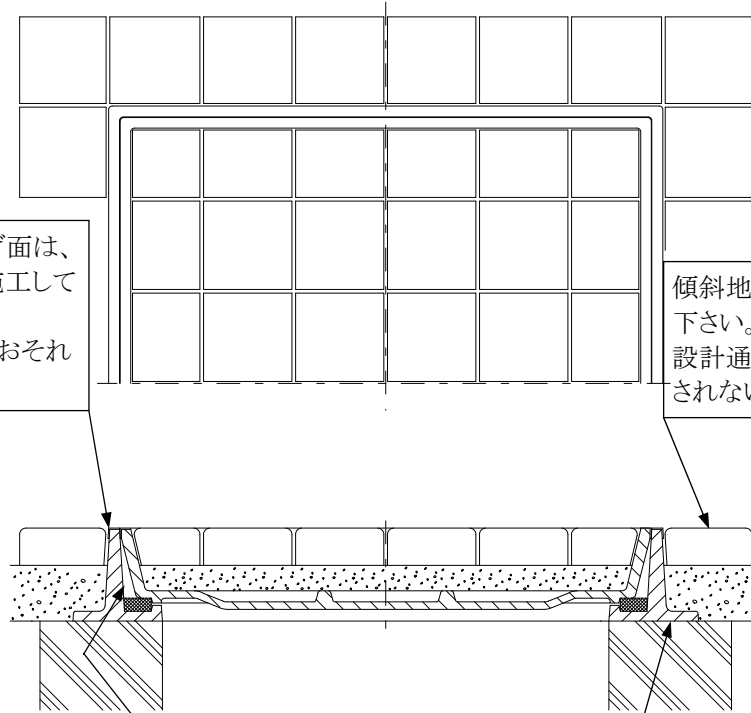


SHASE - S 209 鋳鉄製マンホールふた（化粧マンホールふた）

 適用の範囲および安全荷重を超えた車両が通過しないようにして下さい。破損することがあります。

枠の上面と床の仕上げ面は、同じ高さになるように施工して下さい。つまづいてケガをするおそれがあります。

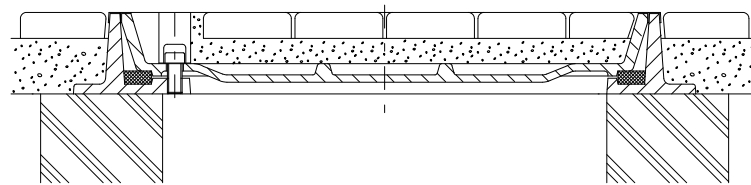
傾斜地でのご使用をお控え下さい。設計通りの安全荷重が確保されることがあります。



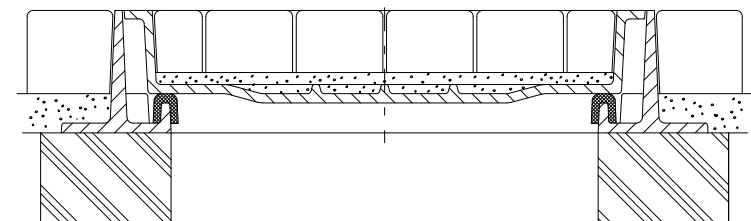
枠の中に砂、小石等が入ると、ガタつきやふたの飛び出しの原因となります。定期的に清掃して下さい。

施工例：簡易密閉形（パッキン式）

コンクリートで枠全体を受ける状態に施工して下さい。枠の破損により事故及びケガのおそれがあります。




施工例：密閉形（ボルト・パッキン式）



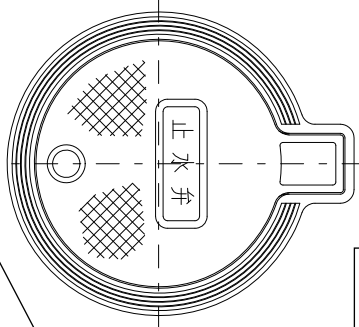
施工例：簡易密閉形（パッキン式）インタロッキングブロック用

# JCW103 弁枘ふた

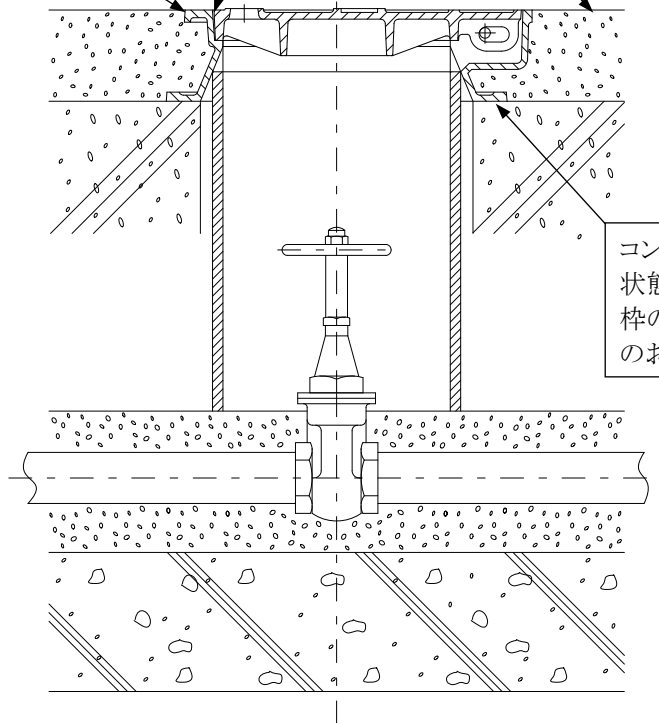
 適用の範囲及び安全荷重を超えて使用すると破損により事故およびケガをするおそれがあります。

枘の中に砂、小石等が入ると、ガタツキやふたの飛び出しの原因となります。定期的に清掃して下さい。

枘の上面と床の仕上げ面は、同じ高さになるように施工して下さい。つまづいてケガをするおそれがあります。

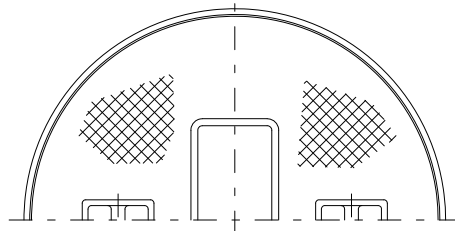


傾斜地でのご使用をお控え下さい。設計通りの安全荷重が確保されないことがあります。

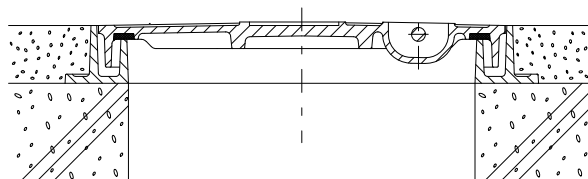


コンクリートで枘全体を受ける状態に施工して下さい。枘の破損により事故及びケガのおそれがあります。


施工例:B-1



施工例:MHA-P



## JCW104 弁きょう

 適用の範囲及び安全荷重を超えて使用すると破損により事故およびケガをするおそれがあります。

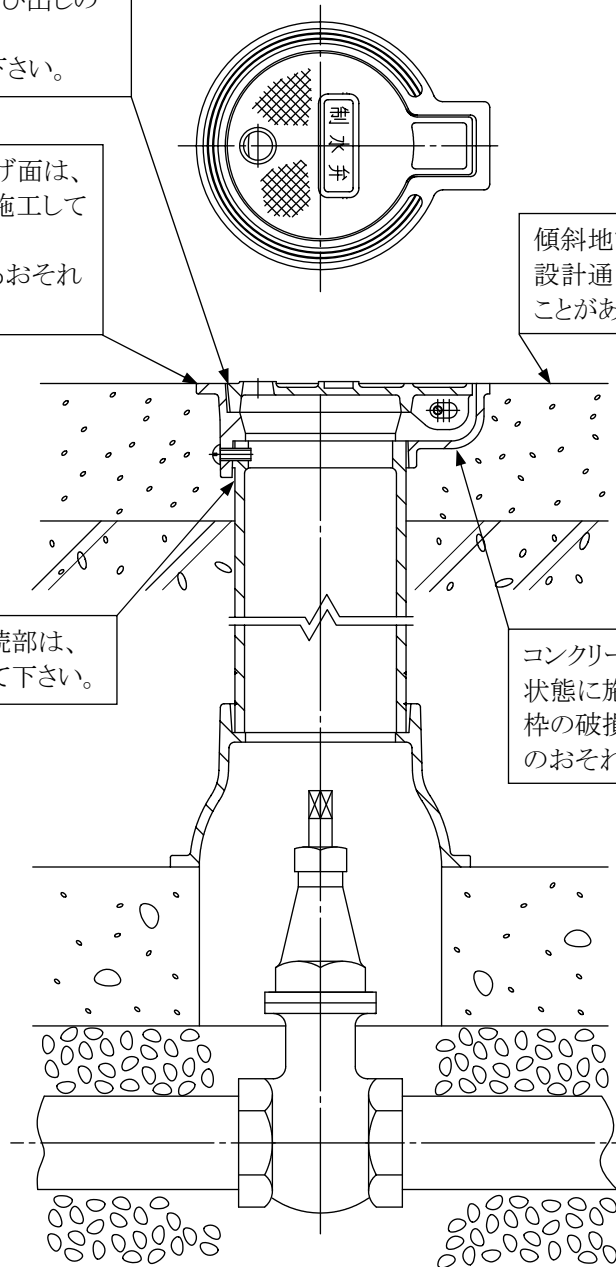
枠の中に砂、小石等が入ると、ガタツキやふたの飛び出しの原因となります。定期的に清掃して下さい。

枠の上面と床の仕上げ面は、同じ高さになるように施工して下さい。つまずいてケガをするおそれがあります。

傾斜地での使用をお控え下さい。設計通りの安全荷重が確保されないことがあります。


接続管との接続部は、確実に施工して下さい。

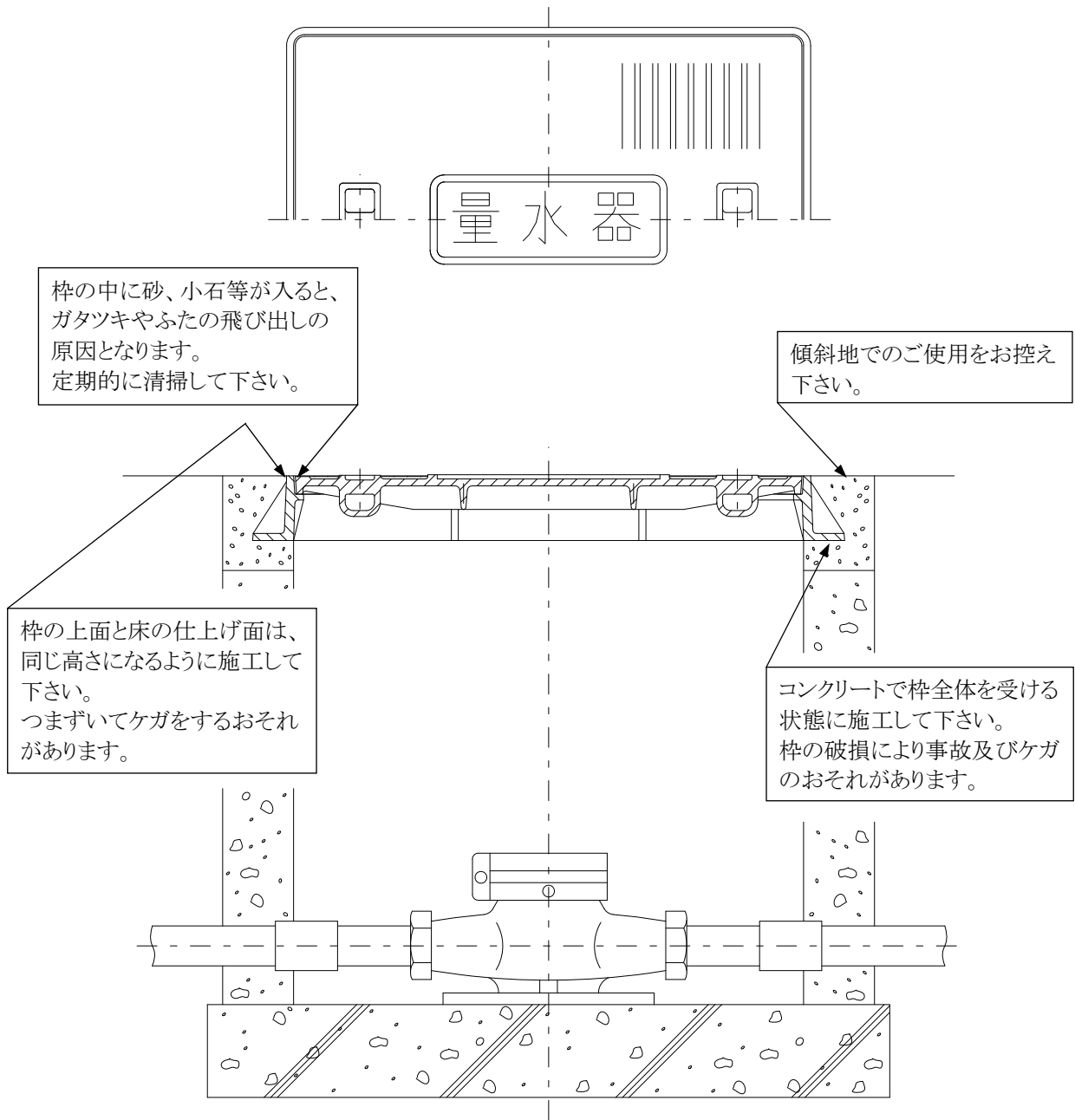
コンクリートで枠全体を受ける状態に施工して下さい。枠の破損により事故及びケガのおそれがあります。



施工例:B5

# J CW 1 0 5 量水器柵ふた

 適用の範囲及び安全荷重を超えて使用すると破損により事故およびケガをする恐れがあります。



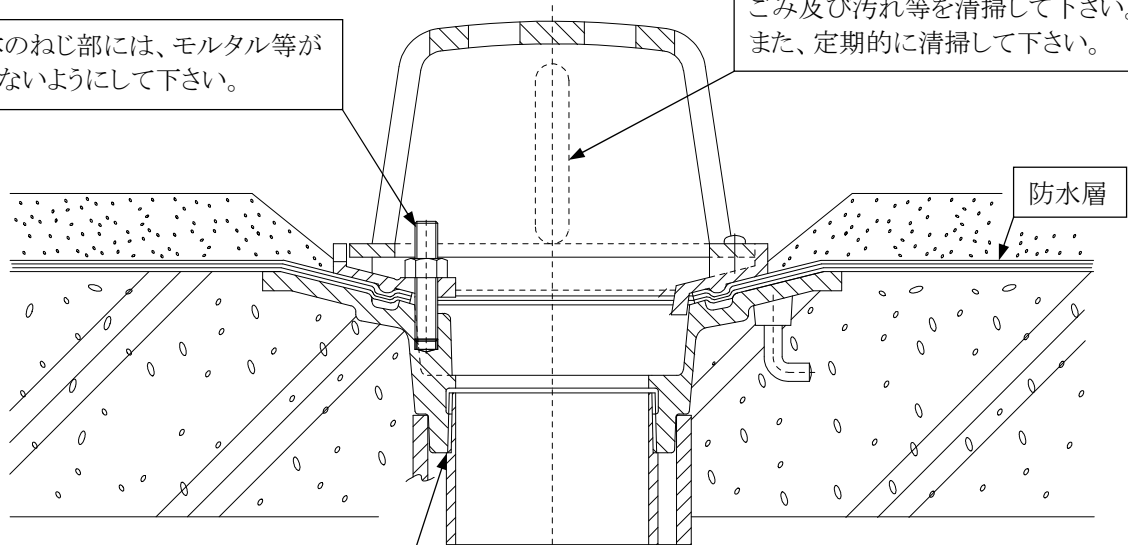
施工例: MB-1



# J CW301 ルーフドレン（ろく屋根用たて形）

本体のねじ部には、モルタル等が入らないようにして下さい。

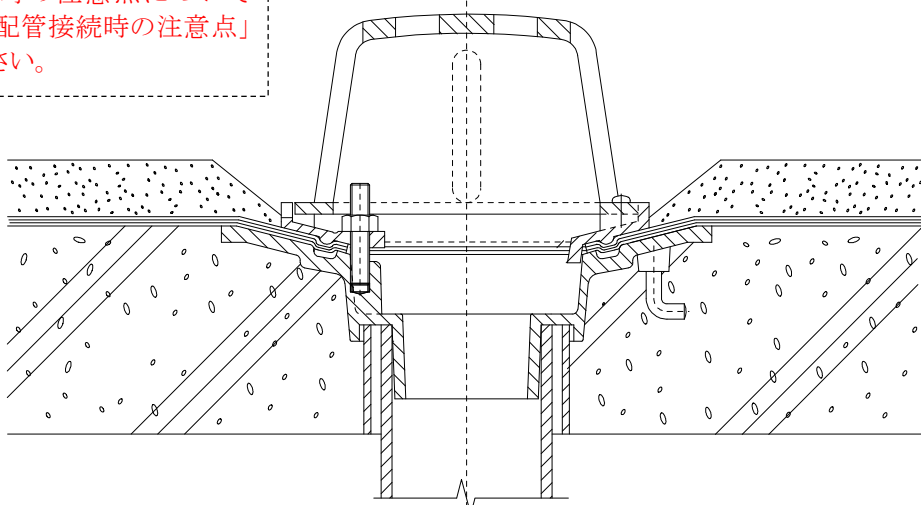
完成時には、ルーフドレンの内部のごみ及び汚れ等を清掃して下さい。また、定期的に清掃して下さい。



施工例:RJ-AA

テーパねじ部の接合は、雄ねじ先端（あまりねじ部）に防錆が必要な為、防食性能のある液状シーリング剤を使用し確実に施工して下さい。

※ねじ接合時の注意点については、「ねじ配管接続時の注意点」を参照下さい。

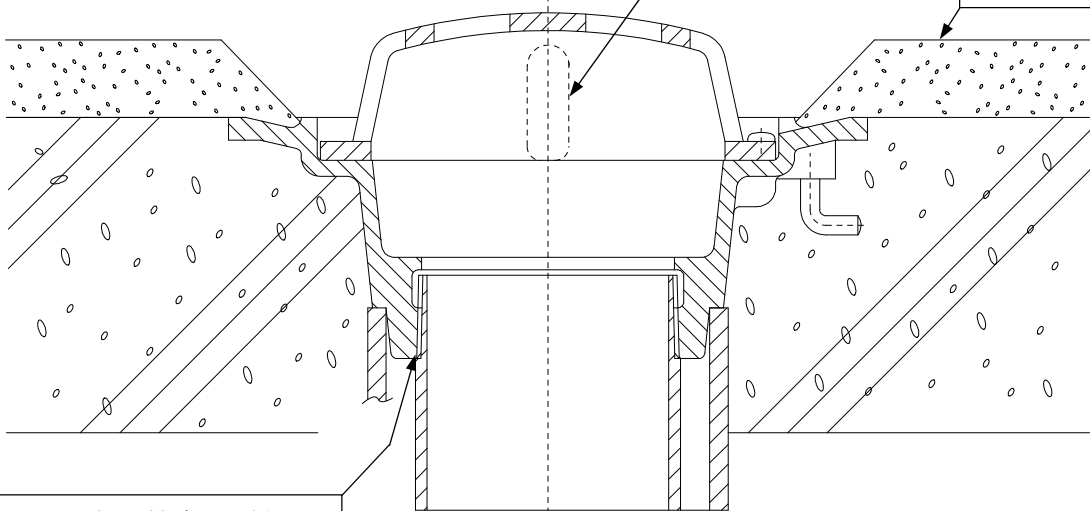


施工例:RJ-AB

# JCW301 ルーフドレン (バルコニー用)

完成時には、ルーフドレンの内部のごみ及び汚れ等を清掃して下さい。また、定期的に清掃して下さい。

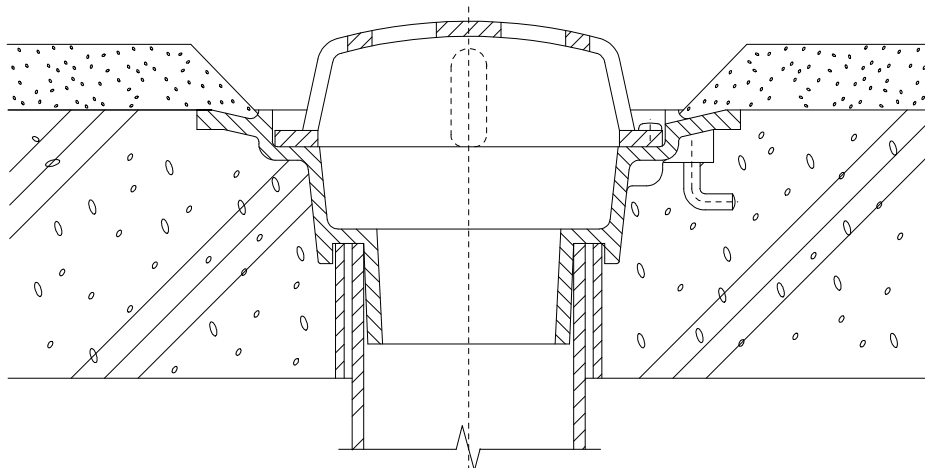
モルタル防水



テーパねじ部の接合は、雄ねじ先端(あまりねじ部)に防錆が必要な為、防食性能のある液状シーラント剤を使用し確実に施工して下さい。

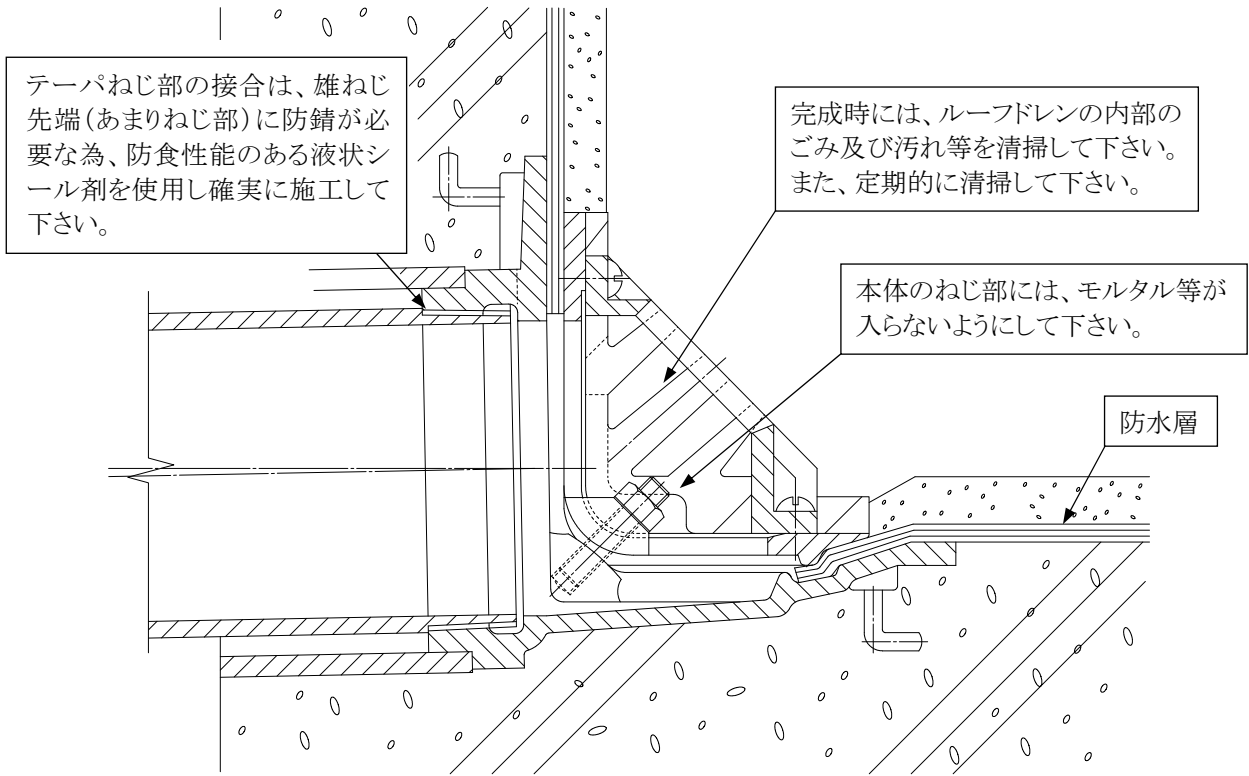
施工例:RJ-DA

※ねじ接合時の注意点については、「ねじ配管接続時の注意点」を参照下さい。



施工例:RJ-DB

# JCW301 ルーフドレン（ろく屋根用横形）



施工例:RJ-BA

## ねじ配管接続時の注意点

### 1. ねじ切り及び、ねじの確認

正しいねじが切れないと、予定通りの寸法におさまらなかつたり、漏れたりして、寸法取りからまたやり直さなければならなくなることがあります。そういう材料、時間のロスを招かないためにも、ねじ切りに当っては、慎重、確実な作業をすることが必要です。

ここでは、細かなねじ切りの方法については省略しますが、日本金属継手協会の発行している「正しいねじ込み配管の手引き」を参照し、正しいねじが切れていることを前提に、配管ねじ込み時の注意点について説明します。

### 2. 接合部分の清掃・脱脂

接合部分に切粉、土砂などが付着したままでねじ込むと十分ねじ込まれなかつたり、また油分が付着したままだと、それが管内に侵入すると好ましくないことは勿論、シール材が効果を発揮せず、漏れの原因になることがありますので、接合部分の清掃、脱脂は必ず行って下さい。

- ① パイプ及び本体のねじ部に付着している切粉、土砂、ごみなどの異物や水分、油分などはブラシ、ウェス及び脱脂洗浄剤などで除去します。
- ② 接合部分に錆などが発生している場合は、ブラシなどで除去します。
- ③ パイプ、本体の内部に異物がないか再確認します。
- ④ ねじ切り時に水溶性の切削油を使用した場合は、水洗いにより脱脂をしても構いません。水洗後は、ねじ部より水分を、すばやく完全に拭き取って下さい。

### 3. シール材の種類

シール材は接合部分のシールを目的に使用されるもので、テープ状のシール材と液状のシール剤の2種類に大別されます。そのうち液状シール剤は、用途別に数種類ありますので、使用目的に合ったものを選定します。

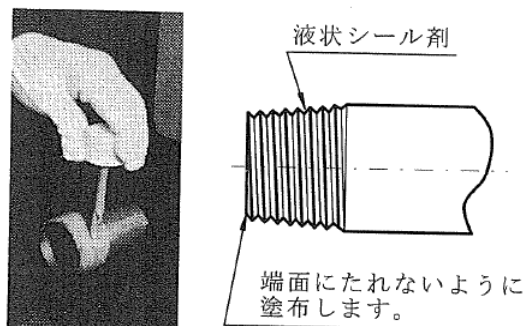
JWWA((社)日本水道協会) K146 は錆の発生を防止する性能も規定しており、これに合格するシール剤は防食シール剤としてJCW 下記製品の接続に最適です。

- JCW201 床排水トラップ
- JCW203 床上掃除口(防水層用)
- JCW205 通気金具
- JCW301 ルーフドレイン

### 4. シール材の使用法

#### 1) 液状シール剤の使用法 (テーパねじ接続に適用)

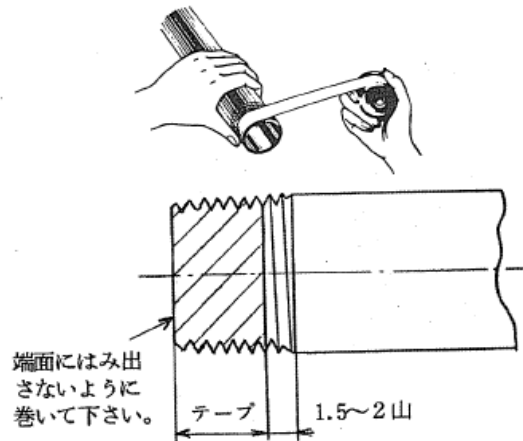
- ① パイプのねじ部が清掃されていることを確認します。
- ② 液状シール剤は下図に示すようにパイプ端面からたれのないように塗ります。
- ③ 液状シール剤は、ねじ山をかるく充てんする程度に塗布します。



液状シール剤の塗布方法

2) テープ状シール材を使用する場合（平行ねじ接続に適用）

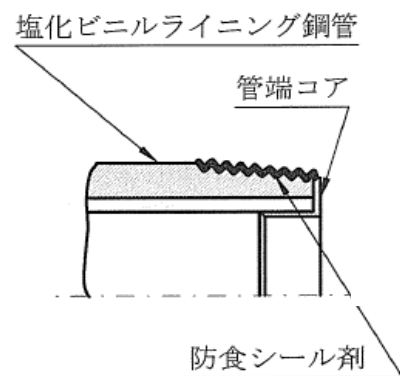
- ① パイプのねじ部が清掃されていることを確認します。
- ② テープはねじの回転方向（時計方向）にパイプ端面からはみ出さないように巻きつけます。尚、ねじ切り上がり部 1.5～2 山は巻かないで下さい。（下図参照）
- ③ テープは 2/3～3/4 幅ラップさせてしっかりと巻き、指で押さえてテープをねじ山になじませます。



3) 内面ライニング鋼管でのシール材使用方法

内面ライニング鋼管との接合に際しては、耐食性を十分発揮させるために接合部分のシールと同時に管端部の防食処理を施す必要があります。

- ① 管端の内面ライニング部は、面取りを行います。
- ② 内面ライニング鋼管の内面、及び管端に接着剤を塗布し管端コアを内面ライニング鋼管に接着します。（下図参照）



5. ねじ込み作業（テーパねじ接続に適用）

ねじ込みの際は、配管径に合った適切な工具を使用し作業を行って下さい。  
尚、平行ねじはこれに従わず、適切な位置（高さ）で金具を調整してねじ込んで下さい。  
（トルク管理は不要です。）

- ① 金具類の本体にパイプを手で固くなるまでねじ込みます。手締め山の数の目安を表 1 に示します。
- ② 手締め後、必ずパイプに適した大きさのパイプレンチを使用します。
- ③ パイプを適正なトルクでねじ込みます。
- ④ 手締め後のねじ込み山数の目安と標準締め付けトルクを下表に示します。

表：ねじ込み山数の目安と標準締付けトルク

呼び	ねじ込み山数		標準締付けトルク	
	手締め 山数 注(1)	手締め後 締め込み山数 注(2)	トルク N・m (kgf・m)	レンチの呼び寸法 ×加える力 N (kgf) 注(3)
1 1/4	5.5	1.5	120 (12)	450×350 (35)
1 1/2	5.5	1.5	150 (15)	600×320 (32)
2	7.0	2.0	200 (20)	600×420 (42)
2 1/2	7.5	2.5	250 (25)	900×350 (35)
3	9.0	2.5	300 (30)	900×430 (43)
4	11.0	3.0	400 (40)	950×530 (53)
5	12.5	3.5	500 (50)	950×670 (67)
6	12.5	3.5	600 (60)	1150×630 (63)

注(1) 基準径の位置までの締め込み山数

注(2) 基準径の位置からの締め込み山数

注(3) 呼び 3 以下はパイプレンチ、呼び 4 以上は鎖パイプレンチの呼びを示します。

- ⑤ ねじ込み後、本体端面からはみ出した防食シール剤は完全に取り除き、露出ねじ部に一般さび止め材を十分に塗布します。
- ⑥ いったんねじ込んだねじを、ゆるめる方向で配管角度を調整することは漏れの原因になるので、避けて下さい。やむを得ずねじ戻しをする時は、45° 以内として下さい。液状シール剤が硬化した後のねじ戻しは絶対に行わないで下さい。
- 注意： 再施工の場合は、シール材を除去し、新たにシール材を付け直してご使用下さい。

引用図書：正しいねじ込み配管の手引き 改訂第4版 日本金属継手協会発行